

祠の前で願ったら女の子になれた





「あの…好きです！」

「もし良かったら、俺と付き合ってください！」

「え……？」

「あ…その…」

頼む…頼む…



「ごめんなさい……」
「私その……君のことは……」
あ……終わった……
「その……恋愛とか……その……」
「対象としては見れなくて……」



「そう…ですか…」

「あつーでも、君のことが嫌いとかでは無くて…」

「大丈夫ですよ…」

「あつ…あの…」

「帰ろう…」

「君が勇気を出して言ってくれたように…私も言うね？」
「？」



「私……女の子じゃないと駄目なの……」

「え？」

「正直、君はいい人だから……」

「その女の子だったら、良かったなって……」

「なんて考えてて……でも、そんなの変だよ……」

「叶うはずも……」

「ごめんね……」

「そう……ですか……」

「女だったら……か……」



「本当に……俺が女だったら……」

「ありだったんですか……?」

「……うん。」

「俺……女だったら……良かったな……」

「変な事言ってごめんね……?」

「でも、本心なの……私……女の子じゃないと……」



女だったら…良かったのに…

叶うなら…女になりたい…

「叶えてあげようか…?」

「え?」

「お前の願い…叶えてあげるよ」

「え!？」

「やあ……」

「え……え……だれ……」

「お前たちでいうところの神みたいな存在かな」

「この前で願ったんだ……」

「だから叶えてあげる」



「うてて…」

「ほら…この祠だよ」

「ここは私の家なんだけども…」

「こんなとこに祠…全然気が付かなかった…」

「つていうか…こんなとこにあったか？」

「この前で願ったら叶えてやらんといけなくてね」

「だから叶えるよ」





「じゃあ…さっそく…」
「その身体が女だったらよかったのдар？」
「私に任せろ…」



「この一物も…消してやる…」

「胸部も…女らしい膨らみに…」

「腰のライン…身体つき…」

「お前が望む…姿に変えてやる…」

ドドド…



「ほら...無くなった...」
「胸もできた...」
「男らしい部分はもう...」

♡ りん♡
♡ プリン♡



「無くなったよ……♡」

「嘘……」

「嘘じゃない……本当さ……」

「これでお前の望みは叶ったろ……」

「応、対価としてお前の「物」はもらっておく♡」

「これでお前はあの女と……ふふ」
「これから元の世界に戻す……」
「沢山楽しめよ？」
「折角の女の身体だ……」
「思う存分に……」





「はあ……はあ……」

「今のつて……」

「嘘……この感触……」

「本当に女に……」

なぐさ

いっ

いっ

いっ

「え……」
「嘘……」
「あつ……」
「女の子みたいに……」
「なんで……？」



「あつ……いやこれは……」
「俺もよくわからなくて……」
「女になりたいって思ったら……」
「なんか……こうなつて……」
俺……女になったから……もしかして……





「本当に女の子になったんだ…」

「えっと…その…」

「私…言っただもんね…」

「君が女の子なら…」

「なんか…すくビックリしてるけど…」

「嬉しいというか…」

「じゃ、じゃあ…？」

「うん…いいよ…」
「本当…?」
「嘘なんじゃないよ…」
「や、やった!」
「嬉しい…嬉しい…!」
「けど…」



すごいスナリ受け入れたな……
目の前で急に姿が変わったんだぞ？
いや……でも、そんな事を考えてる場合じゃないよな！
せつかく付き合えることになったんだ！





「それじゃ…その…」

「はい？」

「私たち…恋人って事だよな…？」

「その…はずです…」

「じゃあ…き、キスとか…」



「え!？」
「駄目かな……？」
「そんな駄目なんて!」
「ぎや、逆に……いいんですか?」
「私は……キス……したい……」
マジ!本当に!?



「俺も…したい…です…」
「本当に…？」
「それじゃ…しよう♡」
「…はい…」



「ん…♡」

「はあん…」

や、柔らかか…

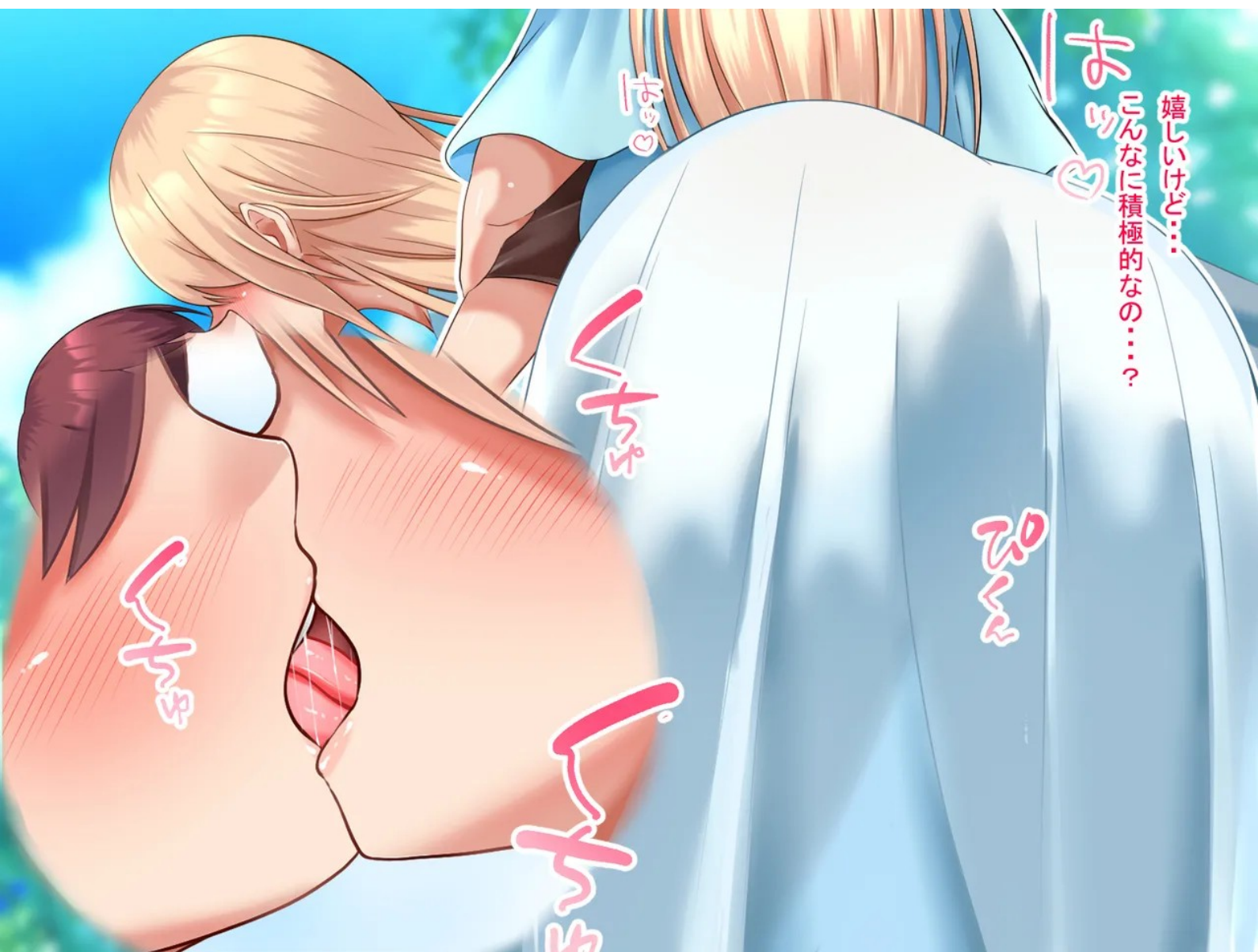
これが…唇の感触…

気持ちいい…

ちゅっ♡
ゅっ♡

「んっ!？」
「ああ♥んっ♥」
舌!?!え!?!入れてきてる!?!
いきなり!?!嘘!?!









もっど...もっど...

「もっど絡めて...♡」

「うん...」

「もっど気持ちよく...♡」

「なるう...♡♡」

きゅん♡♡

きゅん♡

くちゅい

くちゅい

くちゅ



「私…私…♡」

「もう…我慢できないかも…♡」

「え…?」

ぞくぞく

ずんずん

びび…♡

ぞくぞく

ぞくぞく

ぞくぞく



「はあ……はあ……♡」
「大丈夫……？」
「ううん……駄目かも……♡」



「えーっ、ちょ、ちよつとー」
「「ん、ぢやあつ、っ♡」
「するつて…何を…っ？」
「ふふ♡もう…わかってるくせに♡」



「君の身体……いいね♡」

「「ういうの……好き？」」

「好きで……♡♡♡♡♡触っ♡♡♡♡♡」

「君の身体だよ♡」

「女の子の身体……私が教えてあげる♡♡♡♡♡」

トッ♡

ふふ♡

ハハ♡

もみ♡

「いも...」

「沢山...気持ちよくしてあげる♡」

なんだ...身体が...ソクッて...

変な感じ...

でも、こんな外で...?

なにゅ...♡

ふい
ふい

さわ...♡

♡♡

ふい
ふい



「あれ？もう乳首勃ってる♡」
「もしかして……」も♡♡」
「濡れてきてるっ♡♡」
「よく……わかんないよ……」
「これから……わかってい……♡♡」

「すっ♡♡」

「すっ♡♡」

「すっ♡♡」

「びく……」

「すっ♡♡」

「びく……」





「はあ…♡」
「熱くなってきたね♡」
「ちよっ!?!」
「本当に始まる!?!」

「君だけ裸は可哀想でしょ?♡」

「だから...私も...♡」

「一緒に裸になれば恥ずかしくないでしょ?♡」

「それに外で裸になるの開放感がすくて気持ちいいよ♡」



「これから沢山気持ちよくなるんだから」
「せっかくだから最高に気持ちよくなるうね……♡」
こんな外で……
告白しただけで……ここまで……





「はあ♡」
「これで一緒だね♡」
「私の身体…ぐっ♡」
「え…その…」
「なんだこれ…すごい…エッチだ…」



「す、すく…きれいで…」
「うん♡」
「み、見惚れちゃう…っというか…」
「ふふ…♡」
「興奮する…♡」
「は、はい…」



「ふふ…♡」
「ありがとう♡」
「…」
「すごい光景だ…」
「お願いがあるんだけど…」
「は、はい？」



「私の…おま●…♡♡」

「舐めて…♡♡」

「え…♡♡」

「…もう、濡れてるの…♡♡」

「君に…舐めて欲しいの…♡♡」

「いの…♡え、でも…」

「早く…♡♡」

「はぁ…♡♡」

「はぁ…♡♡」

「はぁ…♡♡」

「はぁ…♡♡」



「!？」
「んっああ♥」
「ほら…♥舐めてよ♥」
「私のおま○♥」









「んんっ♡」
「んっ…?」
ビクッて…もしかして…
俺の口で…?

びく
んっ

びく
ん

びく
ん

びく
ん

びく
ん

びく
ん

びく
ん





「柔らかいおっぱいだね♡」
「まるでマシユマロみたい♡」
「はぁ…あつ…」

ドキ

ドキ

んっ♡

ドキ

んっ♡



「ふわふわで……♡」
「私よりいいおっぱいしてるんじゃない?♡」
「そ、そんなこと……」
「やばい……触られるの……気持ちいい……」

ドキ

♡

もみ

もみ

ドキ

もみ

♡

♡

い



「んっ！」

「ふふ♥かわいい乳首♥」

「グリクリ♥」

「なんだ…全身に電気が走るみたいに…」

「つく…うっ…」

「すっ♥」

「びく…」

「びく…」

「すっ♥」

「びく…」



「いい反応だね♡」

「やっぱり、おっぱいが弱点かな?♡」

「ちよつと…なんか…」

「変な…気分…っ!」

ずっ♡

どく

ずっ♡

ドキ

ずっ♡

どく

ずっ♡

ドキ



「感じてる証拠だね♡」
「沢山、攻めてあげる♡」
乳首…こんなに感じるの…？
全身が敏感になってるみたい…

すあ♡♡

すあ♡♡

すあ♡

すあ♡

す♡♡

びん

ぴん





「んんっ！」
「君のおま●こも…濡れてきてるから…」
「すごい滑るね♥」
「ヌルヌルで気持ちいい♥」
「はぁ♥あぁ♥」



「お外で…こんな事して…」

「恥ずかしいね♥」

「誰か来たら…どうしようか?♥」

「でも、気持ちいいから止められないね♥」

「この人…こんなにエッチな人だったんだ…」



「はあ...はあ...」

「なんか...上がって...はあ...」

「ふふ♡イキそう？♡イキそうなのかな？♡」ぞく...

「いいよ♡ま●こ擦り付けながら...イッて？♡」

「君がイクのをま●こで感じたい♡」

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ





「うっ!はああ」

「はぁ♥あぁぁ」

「ビクビクって...♥」

「気持ちいい♥」

「おま●こから伝わってくる♥」

「君の...気持ちいいのがぁ♥」



びく…

おっ♡

びく…

びく…

びく…

おっ♡

おっ♡

おっ♡

「はあ…はあ…」
熱い…なんだよ…これ…
男の時より…気持ちいい…
「どう？♡イッた感想は…？♡」
「はあ…頭が…ぼーっとして…」



「はあ...はあ...すごかった...」
「はっ...私...」
「なんで...こんな事...」
「ごめんなさい...」
「いきなり...こんな事...」



？

「あつ……いや……」

「こんな……はしたない事……」

「き、嫌いに……なつたよね……？」

「えーそ、そんな事ないですよ！」



「ほ、本当……？」
「うん！」
「じゃ、じゃあ……明日……デートしてくれる？」
「え？で、デート？」
「……うん」



「もちろん！喜んで！」
「本当に！良かった！」
「じゃあ…行こうね！」
「はい！」



「あつ…まずは服着ようか……？」

「あつ…そうですね……」

「誰か来たらまずいですもんね……」

「うん……」

「なんか…私…変だな……」



「それじゃ…明日…」
「うん。楽しみにしています!」

「ふう…疲れた…」
「今日はすごかった…」
まさか…告白成功…
いや…それよりも…
俺…女になったんだよな…?」





「今更だけど……夢じゃないんだよね……？」
あの祠……神様……
それに……あんな事まで……
思い出したら……まだドキドキしてきた……
もしかしたら、明日も……」

「自分の身体だもんな…」
「ちよつとくらいいいよねっ」
「あの神様も楽しめて言ってたじ…」



「改めて見ると……」
「本当に……ま●こだ……」
「こんな風に見えるんだ……」
「すげえ……」





「はあ……おお……」
「なんか……悪い事してる気分だけど……」
「ちよつと……だけ……」
「ちよつとだけなら……別に……」

「んっ……」
「やわらか……」
「ま●こってこんなに……」
あの時は……口で……
そうか……俺……





思い出したら…なんか…
「はあ…はあ…」
「こう…かな…？」
「んんっ…」





ヌルヌルしてきた…
「はあ…うっ…」
すげえ…エロい…
それに…気持ちいい…
男の時と全然違う…



やばっ…これ…止まらないかも…
「はぁ♥はぁ…♥」
気持ちいい…
これ…中に入れたら…

「んんっ!♡」
「あっ……♡はぁ♡」
「温かい……ヌルヌルもすこくて……」
まん●こも……指も……
気持ちいい……♡







「はあ♡はあ♡はあ♡♡」
「女のオナニ気持ちいい♡♡」
「これ…止めれない…」

はあ♡

はあ♡

くちゅっ…

くちゅっ…

はあ♡

くちゅっ…



「音…やばい…」
これ…全部…俺の…
熱い…おかしくなる…」



「おっ♡んっ♡」

「あぁっ♡はぁ♡」

「気持ちいいっ…♡」

「はぁ…♡あっ♡」

上がってきた…あの感覚だ…

気持ちいいのが…上がってきた…

ぐちゃ

ぐちゃ

おっ♡

ぐちゃ

ぐちゃ

ちゅ

ちゅ

ぐちゃ



もう…このまま…
気持ちよく…
我慢なんて出来ないよ…
女…気持ち良すぎ…



「おっ♡やばっ…」
「イクっ…♡イクっ♡」
俺…また、この身体で…

ちゅ

ぐ

ちゅ

ちゅ

ちゅ

ちゅ

ちゅ



「んっっっっ」
「くっっっ」
気持ちいい！気持ちいい！気持ちいい！

「はぁ♥はぁ...♥」
やっちゃった...

廊下で...
俺...

—お♡♡

—お♡

—お♡

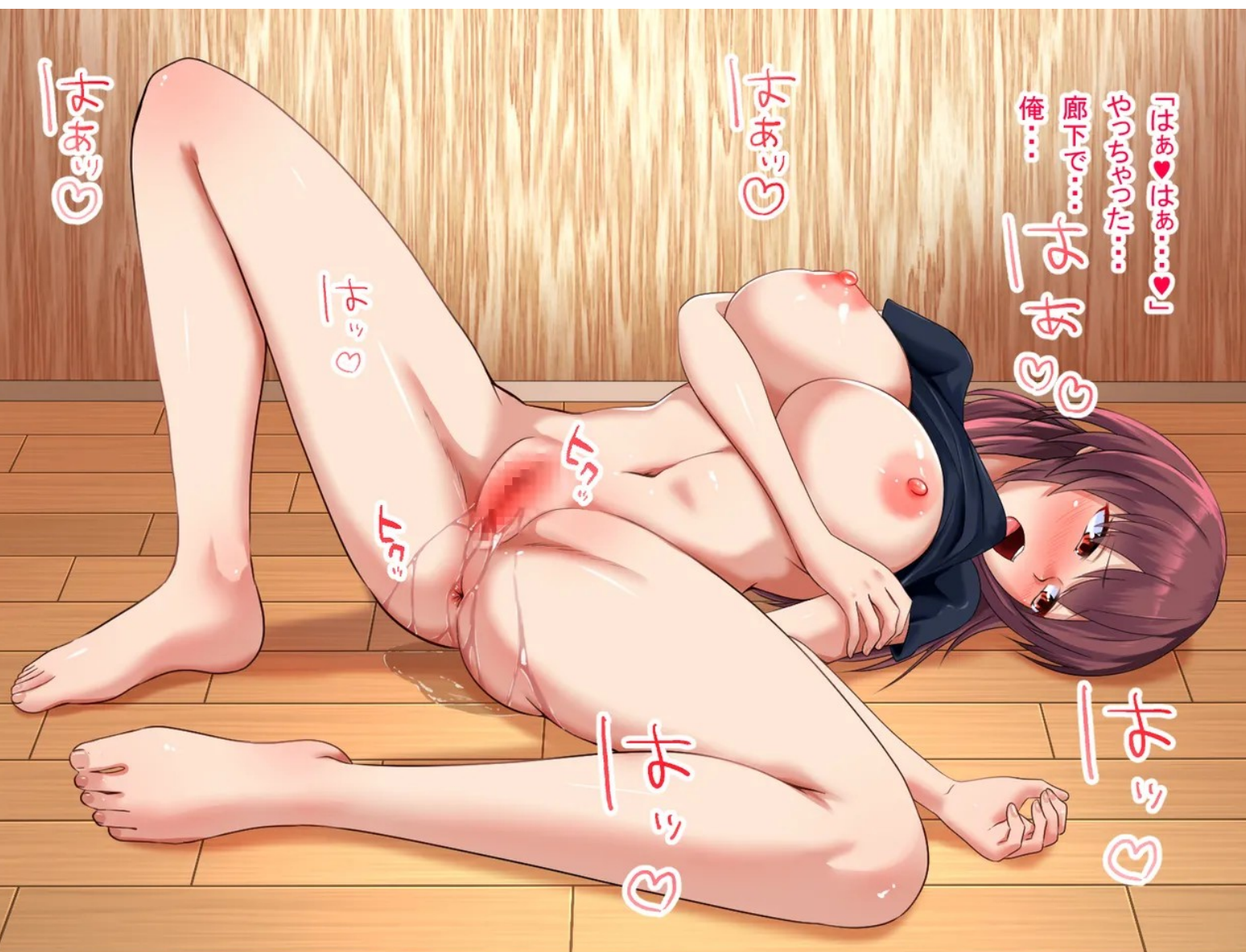
—お♡

—お♡

—お♡

—お♡

—お♡



掃除しないと…
でも…しばらく動けない…
こんな姿…
誰にも…見せれないな…
「ふう…はあ…」

すあ♡♡

すあ♡

びく

はあ♡♡

ドキ

はあ♡♡

すあ♡

ドキ



「ぼろっとする…」
ちよつとだけ…休もう…
休んだら…掃除と…
明日の…準備を…

ーおッ♡

ーおッ♡

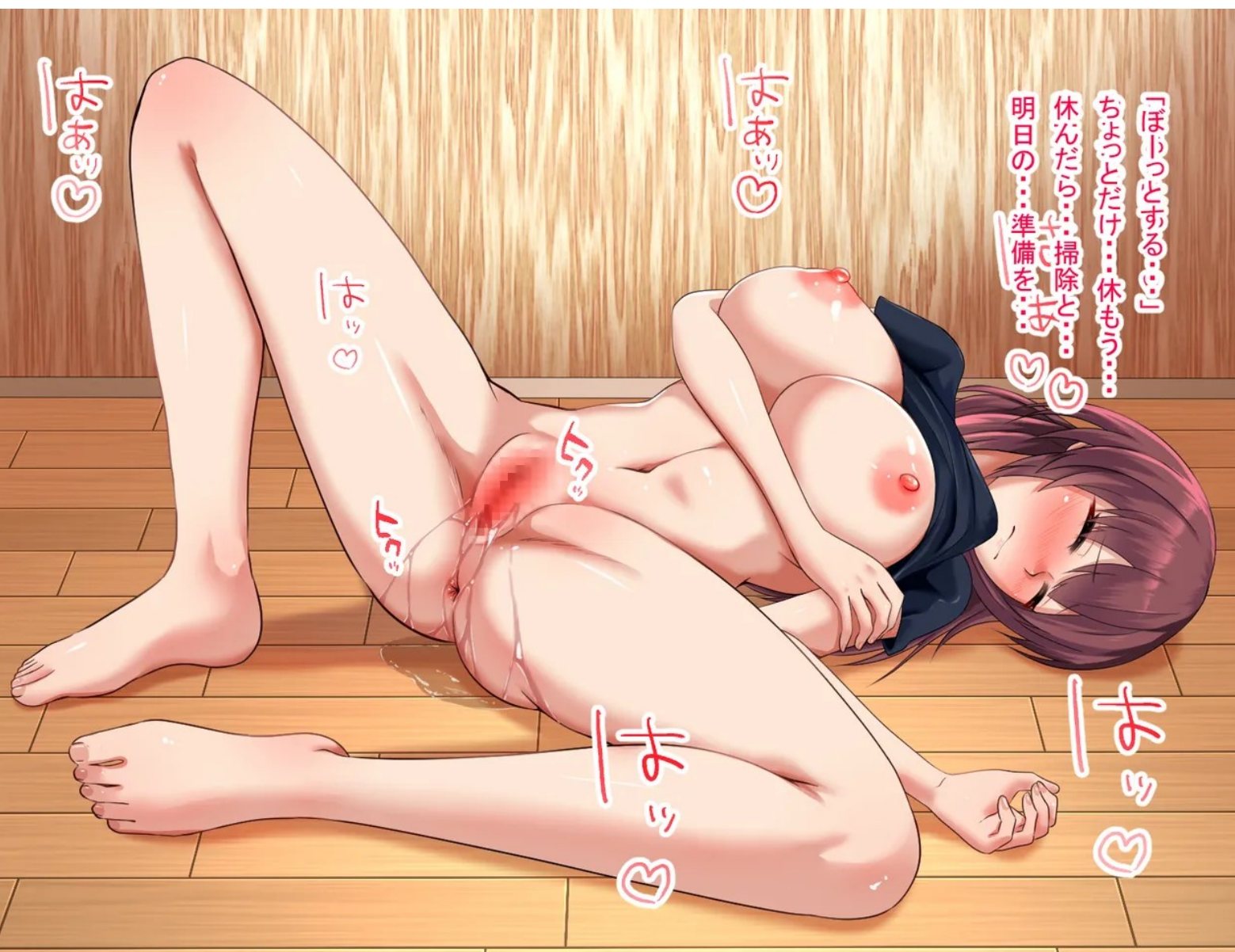
ーおッ♡

ーおッ♡

ーおッ♡

ーおッ♡

ーおッ♡



楽しみ…だな…
どんな事…するのかな…？
……

びく

はあ♡

ドキ

はあ♡

はあ♡

びく

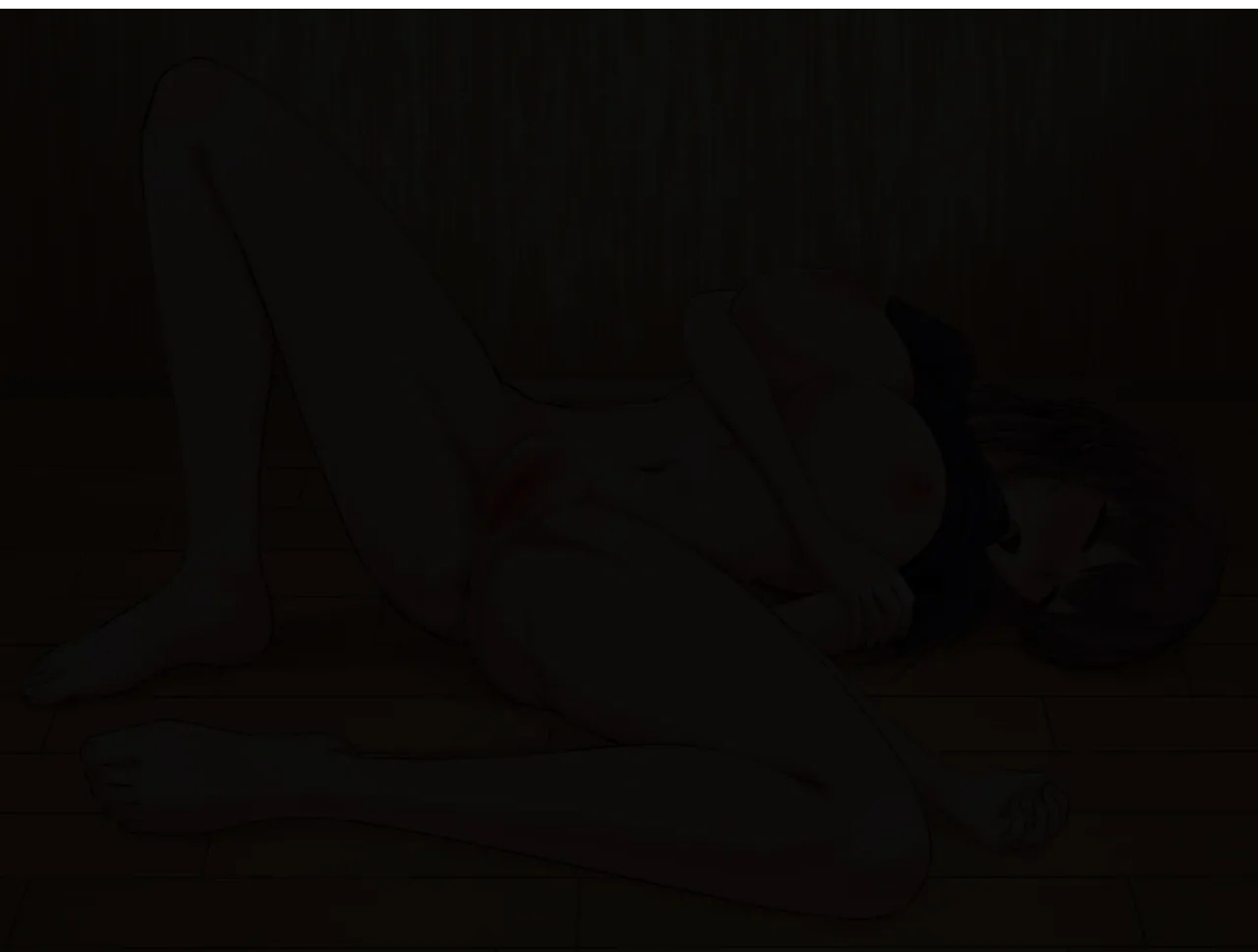
はあ♡

ドキ

はあ♡







あのまま寝てしまった…
もう待ってるかな…？
時間はまだ大丈夫だけど…





「あつ...」
「ん？あつおはよう」
「おはようございます...」
「なんか...ちよつと気まずいな...」
「待ちました？」



「ううん！さっき来たばかり」
「それなら…良かった…」
「今日は楽しもうね？♥」
「あっはい！」
「それじゃ…行こうか」

数時間後

「他に行きたい場所ありますか？」

「うん。そうだね」

「あつ！服買いに行こうよ！」

「服ですか？」



「うん！」
「せっかくかわいい女の子になったのに」
「男物しかないでしょ？」
「だから可愛い服買いに行こう！」
「…なるほど…」





「似合うね!」

「そ、そうですか?」

「うん! 素材がいいんだね!」

「他にも試したいな!」

「適当でいいですよ」

「駄目!」



「せつかなんだから!」

「妥協はしたくないの!」

「それに…初デートなんだから!」

「!」

「そう…ですね…わかりました!」

「うん！これだね！」

「すごく可愛い！」

なんか…最初は恥ずかしかったけど…
楽しいな…それに、嬉しいな

「これに…します！」



「うん！」

「せっかくだし、これ来て行こうよ！」

「え？」

「すいませ〜ん！」

「これください！」



「今日は楽しかったですね」

「うんーそうだね」

「あの……このあとは……どうします？」

「そうだね……じゃあ……」





「ここ入っちゃおうか♡」
「え！ホテルですか？」
「うん♡嫌？」
「いや…嫌では…でも…」

「君は……したくない？」

「え？」

「それに……歩き回って疲れたしさ……」

「ちよつと休んでいこうよ♥」

「えつと……いいんですか？」



『もちろん♡』
『はいよ♡』
『入ろう？♡』
『そうですね…わかりました…』
『ふふ♡』



すごい…緊張してきた…
「シャワーだけ浴びちゃおう？」
「結構汗とかかいちゃったし」
「それもそうですね」



「一緒に入る?♡」

「え!」

「ふふ♡照れちゃって」

「かわいいね!」

「冗談だよ。先に入って♡」

「あつ...はい」



冗談か…
ちよつと期待しちゃつたな…





「ふう……」
ホテルまで来ちゃったな……
やっぱり……このあと……やるんだよな……
昨日みたいに……



!?

「え…?」

「やつほ♡」

ガタリ

「我慢出来なくて来ちゃった♡」

「一緒に浴びよう?♡」

「え…あつ…」

背中…当たってるのが…わかる…

「いいでしょ?♡」

「う、うん…」





「なんか…すごいドキドキしてるね♡」

「触れてるからわかるよ♡」

「そ、それは…」

背中でも、彼女の身体を感じる…

触れてるだけでも気持ちいい…

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

「ちゃんとキレイにしないとね…♥」

「今日は私が洗ってあげるよ♥」

「じ、自分であ、洗うよ…!」

「え?嫌なの?」

「せっかく一緒に入ったんだよ?♥」

「洗っこしようよ♥」



俺…理性たもてるか…？
「じゃ、じゃあ…うん…」
「ふふ♥やった♥」



「さっぱりしたね♡」

「うん…」

「なんとか…耐えた…」

「じゃあ…始めちゃう?♡」

ポカ

ポカ



「なんか……さつきはすい我慢してたよねっ♡」

「え！」

「ふふ♡わかるよ♡」

「今からの我慢しなくていいからね♡」

「私も我慢しないから♡」



「ん…」

「一緒に気持ちよくなろうね?♡」

「うん…」

「私が教えてあげる♡」

「女の子同士セックス…♡」

ん





「んっ…」

「君のおっぱい…♡」

「やっぱり気持ちいいね♡」

「はぁ…んっ…」

「気持ちいい…」

「この人に触られてる時が…」

もみ

もみ

もみ

もみ

もみ

もみ

「おっぱい触ってる時...」
「君、すごく気持ちよさそう♡」
「うん...好き...」
「ふふ♡そうなんだ♡」
「いいこと聞いたな♡」
「じゃあ、もう少しもんであげる♡」

もみ

ん

もみ

ムン

ん

ん

ん



「はあ……♡はあ……♡」
「身体……熱くなって来たね♡」
「うん……気持ちよくて……なんかフワフワする」
「いいね♡」
「もっど、フワフワして♡」
「うん……♡」
「お腹の下辺りが……ポカポカする……
あのときの感覚だ……」

どくっ

きゅん♡

かきい♡

はっ♡

はあ♡

はあ♡

どくっ



「そろそろ…他の場所も…♡」
「攻めてあげるね♡」
「うん…」
「じゃあ…脚開いて?♡」
「え!?!」







「もう、濡れてる♡」
「おっぱいで感じてたんだね♡」
「はあ...♡恥ずかしい...♡」
「割れ目もしっかり舐めてあげる♡」
「んんっ♡」
指とは違って...ヌルヌルで温かいのが...
指より気持ちいい...



「はぁ♡あつ♡」

「き、気持ちいい…♡」

「君のおま●こ…すごく美味しいよ♡」

「どんどん汁が溢れてくる♡」

ぞくぞく…

ぐちゃぐちゃ

はぁ♡

ぐちゃぐちゃ

はぁ♡

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ





やばい…アレがあがつて…くる…
「だ、駄目…♡」
「あっ♡もう…♡♡」



「んんっ!!♡」
「はあ♡あれ?♡」
「イツちやった?♡」
「この感じ...ヤバすぎ...♡」



「まだ……イけるでしょ?♡」
「うん……大丈夫♡」
今日は……もっと……長く……
したい……♡

「今日はふたりつきりだからね♡」
「思う存分しないとね♡」
「そうだね♡」



「好きだよ♡」
「え…うん♡俺も…♡」
「なんだよ…急に…」
「すく…嬉しいんだけど…」
「言葉でも愛を伝えないと♡」





「あっ♡はぁ♡」

「これ…気持ちいい♡」

「おま●こが…擦り合うの…気持ちいい♡」

「もっと…もっと…♡」

「私のおま●こも…もうグチョグチョだから」

「すごいエッチな音なるね♡」





「やば……これ……腰止まらないね♥」

「と、止めないで……♥」

「もっとしてほしいから……♥」

「止めないよ♥おかしくなっても♥」

「止めであげない♥」

「うん……♥」

パッパッ

はぁ♡

くちゅ

くちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

パッパッ

はぁ♡

パッパッ

はぁ♡

くちゅ

はぁ♡





熱い…熱い…♡

「はぁ♡あつはぁ♡」

身体が…熱い…♡

セツ●ス…気持ちいい♡

気持ちいいよ…♡

「はぁ♡はぁ♡」

はぁ♡

パン

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

はぁ♡

パン

パン

はぁ♡

ぐちゃ

はぁ♡





「はあああああ♥♥♥」
「んんっ♥♥♥いい♥♥♥」
あああああ気持ちいい♥♥♥
イクの気持ちいい♥♥♥





「はぁ♡ふっ♡♡♡」

「気持ち良かったね♡♡♡」

「うん…すごく良かった♡」



「あの…」

「ん？」

「もう少し…こっちらしてたい♥」

「んん♥♥♥」

「んんんんん♥♥♥」

「ん♥」



「好き…です♥」

「私もだよ♥」

「君が女の子になってくれて…良かった♥」

「これで…君を愛せる♥」

「嬉しい♥」



「ちよつと休んだら...また愛し合つっ♡」

「うん♡」

「時間ギリギリまでやろっ♡」

「うん♡」

『はあ〜』

『あいつは上手くやってるかな〜?』

「やっぱりいいことした後は気分がいいな」
「あの女の子の望みも一緒に叶えた形になるし」
「二石二鳥だったな」

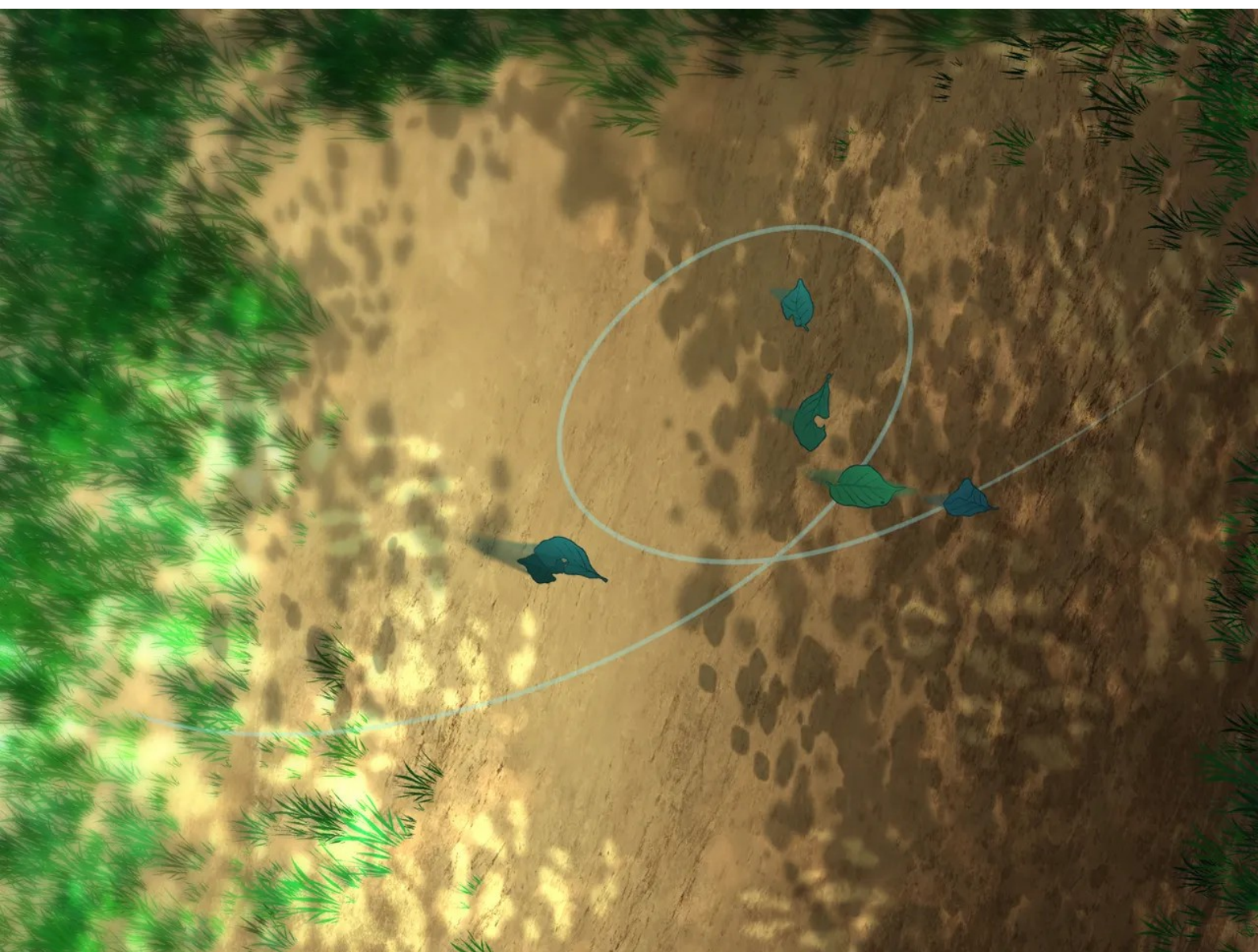


「これで結構稼げたんじゃないかな？」
「早く沢山願い叶えて自由になりたいな」



「次は…いつになるかな…?」
「それまではまた寝てるか…?」





読んでいただきありがとうございます！

次のページからおまけページになります！

おへい

























































